

## 標準的な段飾り(一例)



[七段飾り]

## 雛人形の飾り方(1)



雛人形の飾り方は時代や地域により様々です。とにかくこれに限るというような正しいものはありませんが、余り奇をてらうたよなことはしない方がよいでしょう。左記のことを参考にして頂くとよいと思います。

### 古いお雛様と飾るとき

一般的には南向きか東向きに飾るのがよどとされていますが、お雛様は、それ自身が災厄除けのシンボルであり赤ちゃんのお守りです。飾る場所や、雛人形の大きさなどを考えて飾つて下さい。また、直射日光のあたらない所を選んで飾つて下さい。

### 飾るときの方向や場所

お雛様は関東と関西では、お殿様とお姫様の位置が違います。関西では「天子南面して東に座す」という、古来よりの朝廷の儀式に習い、紫宸殿を背にして左が上位とする飾り方をしてるので、雛壇を背にして右側（向かって左）にお殿様を飾るようになつたとする説があります。また別の説によると、東日本でお雛様が上位である左に置かれるのは、徳川家康の孫である「興子内親王」が後に即位し明星天皇となつてから、古事に習い江戸では上位の左に女雛を置くようになつたという説もあります。

### 親王様(男雛・女雛)の位置

お雛様は関東と関西では、お殿様とお姫様の位置が違います。関西では「天子南面して東に座す」という、古来よりの朝廷の儀式に習い、紫宸殿を背にして左が上位とする飾り方をしてるので、雛壇を背にして右側（向かって左）にお殿様を飾るようになつたとする説があります。また別の説によると、東日本でお雛様が上位である左に置かれるのは、徳川家康の孫である「興子内親王」が後に即位し明星天皇となつてから、古事に習い江戸では上位の左に女雛を置くようになつたという説もあります。



女の子の初節句・ひな飾り

## ひな人形の種類(一例)

※お人形のセットにより付属品は異なる場合がありますので、お店でご確認ください。



【三段飾り】



【五段飾り】



【親王飾り】



【親王飾り】



【木目込み雛】



【収納飾り】



【ケース飾り】

## ひな人形の飾り方(2) 道具の持たせ方



お人形の意匠が異なりましても、この飾り方と仕舞い方を基本にして下さい。  
飾る時も仕舞う時も手袋をするようにしましょう。



【三人官女】●人形の種類によって座官女(中央)の持ち物が島台または三宝があります。

(京風雛)



【三人官女】  
(関東風雛)



【五人囃子】●太刀は脇に軽く差します。人形の腕は多少動きますので、少し動かして太刀をはさんで下さい。



●小道具を持たせにくい場合は、前に置いて下さい。



## 女子の初節句・ひな飾り



【随臣<右大臣>】



【随臣<左大臣>】

### 【仕丁】 (京風雛)

- 小道具は、京風と関東風では異なります。
- 京風の小道具は、一般には、人形の前に置くだけです。



箕 (hōuki)



廉取 (chiritori)



熊手 (kumade)

### 【仕丁】 (関東風雛)



台笠



立傘

## ✿ひな人形の仕舞い方・ワンポイントアドバイス



お雛さまは、湿気の少ない場所を選んで保管されることが基本です。新築のマンションなど、湿気の多い建物では、押入れならば上の棚に置かれるかタンスの上などの方が湿気は少なくて済みます。その他、直射日光が当たる場所など、特別に乾燥の激しい場所も避けて保管してください。

最後に、箱の隅に、ひと包みだけ防虫剤を入れてください。なるべく人形専用のものをお使いください。市販の一般品を使われる場合は、防虫剤と防カビ剤と一緒に乾燥剤と一緒に入れることは、絶対にお避けください。化学反応を起こして、お人形のお顔が変色してしまうような物でなければ、何でも大丈夫です。

箱にお人形を収納します。次に、お人形と箱の間に、詰め紙を入れます。箱の中でガタガタとお人形が動かない程度に、ふわっと丸めた紙をすき間に少し詰めます。お使いになる紙は、新聞紙のように活字のインクでお人形が汚れてしまうような物でなければ、何でも大丈夫です。

ホコリを取り終めましたらお人形が入っていた箱や袋に、お人形を入れてください。その際に、防虫剤や防カビ剤を、袋の中には入れないでください。

お人形の衣裳に薬品が直接触れますと、きれいな衣裳が色あせてしまうことがあります。

次に、それをお人形のお顔に巻き付けます。巻き付けた柔かい薄紙の端を、止めればできあがります。

お顔の保護をします。きれいな柔かい薄紙を、お人形のお顔の長さに合わせて、細長く折り曲げてください。  
※小道具を扱う場合などは手袋をはずしていただいて構いません。お顔には直接ふれないように気を付けて下さい。

お人形のお顔や衣裳についたホコリを毛ばたきなどで払います。毛ばたきに汚れがあると、お顔に付く恐れがありますので、注意して下さい。ホコリが取れない場合は、きれいな柔かい薄紙か脱脂綿あるいは、毛先をほぐした筆、綿棒などを使ってそと拭き取ってください。